

つていた。

その兄のリチャードは、そのころ幼稚園にいっていた。テレビを買つてももらえなくて、いつもテレビのアンテナで遊んでいた。彼はいまラジオの放送局の技師兼アナウンサーとして勤めている。両親の家にはあいた部屋があるのでひとりアパート住いをしている。私が夕食に来ることを知っているのにあらわれないので、両親は電話をかけたいが、経験上、そのような時に電話をかけるのは彼の独立心に障ることを知っているので、電話をかけるのを控えている。夜おそくアパートにたずねた帰りには、母親は洗濯物とコートのあきびんを一山自動車に積んで帰る。自立したいが、親の助けを必要としているある時期の青年の姿である。

私のためのレセプションの席にブルージーンの仕事着のままあらわれた青年チャックは、私が泊っていた別の家の男の子で、そのころ幼稚園に通っていた。彼は、いまミネアポリス市の公園の指導員をしている好青年である。帰り際に時間無理してこの公園に立ち寄ったときには、彼はナースリースクールの年齢の子どもたち十数人におやつを食べさせていた。私はかつて一緒に遊んだ子どもが、いま子どもたちの世話をする実際家になつてゐるのを見て大へんにうれしかった。

今回の米国の旅では、私は文化の差異を強く感じたので、今後差異を強調して教育問題を書くことがあるかと思う。しかし、その前に、人間としての共通点について、個人的体験を記しておかねばならないと思い、こんなことから書き始めた次第である。

* 昭和二十七、八年の幼児の教育に、私が合橋惣三先生に送った手紙を掲載してくださったものがいくつかある。その中にふれてゐる子どもたちのこと。

幼児の教育 第七十一巻 第四号

四月号 定価二〇〇円

昭和四十七年三月二十五日印刷
昭和四十七年四月 一日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼
発行者 津 守 真

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村二ノ一

印刷所 凸版印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町二ノ一
発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレーベル館にお願いいたします